

広島大学マスタース広島 第3回ミニ懇話会のご案内

広島大学マスタース広島の会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。

本年4月27日に第11回総会を開催し、コロナ禍によって休止を余儀なくされた本会の活動を4年ぶりに再開いたしました。その最初の行事として、第3回ミニ懇話会を開催する運びとなりましたので、奮ってご参加ください。

「ミニ懇話会」とは、会員有志が話題を提供し、参加者と自由に質問や意見のやりとりを行い、それを通じて会員間の相互理解と親睦を図ることを目的とする集いです。過去2回のミニ懇話会は、10名程度の参加者があり、和気藹々とした雰囲気の中で議論百出、その後の懇親会もこの雰囲気そのままに実に楽しい語らいの場となりました。それらの内容につきましては、本会ホームページの「例会などの案内と報告」をご覧ください。

<https://masters2.hiroshima-u.ac.jp/reikai.htm>

第3回 広島大学マスタース広島 ミニ懇話会

日時：2024年7月20日(土) 15時15分～16時45分

場所：広島大学東千田キャンパス未来創生センター3階 M302 講義室
(東千田キャンパス正門をに入って左手奥の4階建ての3階です)

話題提供者：大杉 節会員(広島大学名誉教授、元広島大学宇宙科学センター長)

タイトル：「NASA ガンマ線宇宙望遠鏡」開発に欠く事のできない重要な貢献をした経緯
概要

NASAが2008年に打ち上げた「ガンマ線宇宙望遠鏡」(打ち上げ後、フェルミ衛星望遠鏡と名付けられた)のガンマ線望遠鏡の主要構成部品である「半導体飛跡検出器」の開発・設計と宇宙使用に耐える信頼度達成に重要な貢献をした経緯を話し、東広島天文台を作った目的を話します。

私は研究経歴の大部分は「実験素粒子物理学」の研究者です。その私がなぜNASAのガンマ線宇宙望遠鏡開発プロジェクトに参加し、ガンマ線宇宙望遠鏡の実現に重要な貢献をすることになったかは、研究者人生を貫く一連の物語の結果で、全ての出来事が結果に密接に関連しています。

難題挑戦の数々とその際のエピソードや結果を話してみたいと思います。

*今回は、ミニ懇話会終了後の懇親会を事前に企画しておりません。実施については、当日の参加者で
ご判断いただきます。

*第4回以降の話題提供者を募集しています。提供可能な話題をお持ちの方は、是非とも総務担当幹事
までお知らせ下さい。

広島大学マスタース広島 総務担当幹事 椿 康和

E-mail: tsubaki3@mub.biglobe.ne.jp